

1 本年度の経営方針

<p>(1) 学校教育目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護職者としての倫理を自覚し、常に人を思いやる心を持つ人を育成する。 ・専門知識や技能の研鑽と幅広い教養を獲得し続ける人を育成する。 ・コミュニケーション能力に富み、協力し合う姿勢を持つ人を育成する。 ・心身共に健康で、いかなる時でも冷静で的確な判断ができる人を育成する。 ・折れない心を持ち、粘り強く努力できる人を育成する。 <p>(2) 重点目標 「社会人基礎力の育成」 ～「前に踏み出す力(アクション)」「考え抜く力(シンキング)」「チームで働く力(チームワーク)」 「Well Being」な繋がりを求めて(生徒・教師共に)</p>
--

2 学校自己評価結果 (A:十分である B:おおむね十分である C:やや不十分である D:改善を要する)

※各評価項目についての教職員による自己評価結果については、A+Bが85%以上を「A」、A+Bが70%以上を「B」、A+Bが50%以上を「C」、A+Bが50%未満を「D」とする。

領域	対象	評価項目	達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善に向けた取り組みの適切さ			
教育活動	学習指導	学校の特色および実態に即した教育課程を編成している。	A	・「看護科」という特色に合わせた教育課程を編成し、適切な評価及び授業改善に取り組んでいる一方で、多様な生徒が増える中、生徒の意欲を引き出す取組や、反転学習による生徒の力を引き出す取組が必要。 ・看護隣地実習施設の減少に伴い、各施設への協力要請が必要。	A	A			
		学習サイクルの習慣化による基礎・基本の定着及び専門的で高度な知識・技術の習得に取り組んでいる。	B						
		評価の観点・方法を具体化し、日常評価や生徒の自己評価等による適切な評価及び、授業改善に取り組んでいる。	A						
		(看護)臨床実習により看護の実践力を身につけ、体験学習・地域活動により、生きる力・奉仕の精神を養っている。	B						
	生徒指導	教育活動全般を通じて基本的な生活習慣を育成し、学校生活の確立に努めている。	B	・「社会生活を見据えた適切な言葉遣いと態度を養うとともに、自律的な倫理観及び規範意識を育成」に向け、職員が愛情を持って、個々の倫理観に基づき、統一した指導が必要である。 ・今年度の「いじめ」の認知件数は、「5件」であるが、迅速かつ組織的に対応し、解決に至っている。	A	B			
		社会生活を見据えた適切な言葉遣いと態度を養うとともに、自律的な倫理観及び規範意識を育成している。	C						
		生徒会活動を通じて執行部のリーダーとしての資質形成を図るとともに、委員会・部活動等を通して校訓の実現に寄与している。	B						
		各部活動に共通した生徒指導(挨拶、協調性、奉仕活動など)に取り組んでいる。	B						
		教育相談や生徒理解の取組を充実させ、いじめや不登校等の早期発見と適切な処置を対応を行っている。	A						
	自己や他者理解を深められるよう、生徒一人ひとりを支援し生きる力の育成に努めている	B							
	進路指導	キャリア教育と進路指導体制の確立を図り、5年間を見通した系統的で継続的な進路指導を行っている。	A	・看護師国家試験対策として、生徒2～3人に職員1人を配置しきめ細かな指導を実施し、多様な生徒に対し、確かな学力の向上を図った。 ・多様な生徒への対応に向けた進路指導の充実を図る(大学・専門学校等編入情報の調査)。	A	B			
		看護師国家試験対策のための学習の強化を図るとともに、各種模擬試験の実施とその結果の活用を行っている。	A						
進路に関する情報の収集と資料の整備を行い、その活用と適切な情報提供を行うとともに進路の拡大に向けた調査・研究に努めている。		B							
健康安全指導	心身共に健全な人格形成と自己実現の促進を目指し、計画的な健康増進と自己管理意識の高揚に努めている。	A	・日常的な生徒との関わりの中で、変化を見逃さず生徒の成長を支援することに加え、自ら危機を予測し回避していく力も養う必要がある。	A	A				
	安全・防災の視点から危機管理・安全管理に対する行動の習慣化と事故防止の徹底に努めている	A							
学校運営	信頼される学校づくり	教育活動の改善・充実に向け、教育方針や教育目標を明確にし、学校評価を適切に行い地域や社会の信頼に応える看護教育を推進している。	B	・リモートでの会議が定着しつつあるが、保護者等の参加率が低い現状である。引き続き、学校の「見える化」に努めていく必要がある。	A	A			
	(総務)PTA行事を円滑に運営し、保護者と学校間の交流充実を図っている。	A							
学校運営	組織運営	分掌・学年及び職員間の連携を図り、協働して課題解決に取り組んでいる。	C	・職員間の連携が課題となっているため、定期的な会議でコミュニケーションの機会を増やし、学校目標に対し、全職員の理解を共有することで、教員間の連携を強化していく。	A	A			
		分掌・学年等との連絡調整を図り、行事計画を立案するとともに、学校行事の円滑な運営を図り、反省を生かした運営・改善に努めている。	C						
		(事務)各分掌・学年・委員会との連携を図り、教育活動を支援し、施設・設備の充実を図っている。	B						
	教職員の資質向上	公開授業や研究授業、各種研修会等への参加を充実させ、指導力向上のための授業研究実施や評価研究を推進している。	B				・設定された公開授業を積極的に活用し、職員同士が切磋琢磨できる機会を活用する。 ・新たな研修制度の積極的な取組。 ・外部との積極的な交流。	A	A
		危機管理マニュアルの周知や連絡網機能の確認等による危機管理意識、実践力の向上を進めている。	A						
教育公務員倫理や服務規律、モラルの醸成を積極的に図っている。	A								
ご意見	組織運営の教職員評価がB→Cになっていることが気になります。組織運営は全ての教育活動の基幹ですのでB評価になるような取組を求めます。もう少し具体性のある改善策を検討して頂きたいと思えます。学校運営全般について、見える化不足かもしれません。教員は授業やその準備などに時間を要することは理解していますが、効率化をはかり実態と現状の生徒にあった指導をしなくてはと感じています。時代は教員の学習指導の見える化とそれに対するしつかりと言える化が必要です。生徒や保護者へ進めていただければ全体的な柔らかな教育(共育)が進むと考えますし、学校への信頼へと繋がると考えます。								